

閉会挨拶

皆さんこんにちは。理事長の平垣内でございます。

閉会に当たり、まずは本日ご登壇いただきました講演者の方々に感謝を申し上げます。森さん、平田さん、小島さん、市村さん、誠に有難うございました。

ブロックチェーン技術につきましては、当初はビットコインと狭く捉えられておりましたが、最近では、炭素の排出証明、バッテリーのプラットフォームやNFTアートなどへの活用可能性が広がっており、本日はわかりやすく内容を伺うことができました。

貿易のプラットフォームについては、ブロックチェーンの活用を含め、貿易手続きのデジタル化にとどまらず、私自身コンテナの発明以来の海上物流のイノベーションの可能性を秘めているところみではないかと思っております。

確かに今までの情報中心のプラットフォームとは異なり、モノが関係するだけに難しいところがあると思います。今後は港から先だけでなく、ラストマイルまで繋がって、あるいは航空輸送とも連携して物流全体へのいわゆるフィジカルインターネットへの発展が期待されるところです。

また、更なる発展として、サプライチェーン全体のパンデミックや自然災害などの場合の事業継続性の確保やEUなどで商品のライフサイクルでの規制が厳格化されることに対応した環境面でのトレースという役割も担う可能性があります。

あるいは別の観点では、本来ビジネスの観点で発展したものですが、コスコが加入していないなど一帯一路のような国家戦略と無縁ではなく、昨今のウクライナ情勢や北朝鮮制裁への対応から経済安全保障の文脈にも関係しうるのではないかと思います。

国際情勢はコロナやウクライナへのロシアの侵攻など、依然として不透明な状況が続いていますが、国際的なサプライチェーンの再構築などの動きが加速化しております。そのような状況下で、新しい技術であるブロックチェーン技術を活用した国際物流の効率化のためのデジタルトランスフォーメーション（DX）の動きもより活発化しその効果が期待されます。

つづいて当センターの紹介を簡単にさせていただきます。

日本海事センターは、一般社団法人日本船主協会様と日本水先人会連合会様からご寄付いただいた寄付金を基に、海事社会を取り巻く様々な課題解決に向けて海事社会のニーズに即した調査研究に取り組むとともに、海事社会の発展に積極的に貢献して参るべく幅広い活動を行っております。

当センターの事業としては、世界的な海上コンテナ荷動きや運賃の動向について毎月発表するなどの海事の調査研究事業に加え、世界でも有数の海事関係の専門図書館である海事図書館の管理運営事業、そして海事関係団体の支援のために補助金を交付する海事公益支援事業という3つの公益事業を柱に展開しております。

詳しい事業活動につきましては、ホームページで閲覧できます。さらに、毎月メールマガジンも発行して、コンテナ関連の発表や各種トピックスもお知らせするなど情報発信にも努めておりますので、ぜひご活用いただければと思います。

本日は第3回 JMC 海事振興セミナーを開催いたしました。次回は8月30日（火）に神戸で第30回海事立国フォーラムを「今後の海事社会に向けた海事人材の育成と将来展望」というテーマで開催を予定しております。コロナ感染症対策の観点から200名の定員を設けておりますが、遠方の方にもご参加いただけるよう YouTube 配信も同時にいたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

また、本日のセミナーのアンケートにもできる限りのご回答の協力をお願いできればと思います。アンケートの結果を踏まえ、てよりよいセミナーの開催を目指して参りますので、よろしくお願いいたします。

本日は、最後までご視聴いただき、誠に有難うございました。